

カサンドラ症候群と愛着障害との関係性について

○岩田ふみ

(明星大学 教育学研究科)

森下由規子

(明星大学 教育学部)

KEY WORDS: カサンドラ症候群、愛着形成、共感性

(目的)

障害の有無に関わらず、人が成長し社会で生きていくうえで愛着を欠くことはできない。そして、愛着がその時期に形成されなかったことで、生涯を通じて何かしらの困難が生じることが明らかになっている。

「カサンドラ症候群」という DSM-5 に記載されていない心的・情緒的障害がある。当事者には診断された障害名や発達の遅れがないにも関わらず、ある環境下に置かれることで、精神的な障害と同様の困難を示すものである。さらに、カサンドラ症候群は、確かに存在している心的・情緒的障害であるにも関わらず、認知されにくい状況下にある。

本研究では、第一にカサンドラ症候群の当事者の現状を明らかにする。また、当事者がどのような辛さやストレスに苦しんでいるのか、配偶者や子に対する態度や養育への認識など当事者の声を交えることでカサンドラ症候群に関する啓発に努めたい。

第二に、カサンドラ症候群の特性を持つ親は精神的に不安定な環境下で養育を行っていることが予想される。そこで、カサンドラ症候群の親に養育される(された)子どもの愛着形成について仮説・検証することを目的とする。

(方法)

愛着とは何か、という基礎的な部分から DSM-5 による診断基準、原因や種類に関する文献調査を行う。愛着未形成の原因として虐待に視点を置きがちである。しかし、子どもにある「育てにくさ」や愛着を形成する上で欠かせない「共感性(empathy)」に視点を置いた。目の前の事象である親子だけではなく、親が置かれていた肯定的・否定的養育環境や子ども自身にある特性を含めた広範囲の視野でとらえることとする。主な研究方法は、カサンドラ症候群の当事者による自助会に対して任意のアンケート調査及びインタビュー調査、文献研究を行う。

(結果)

カサンドラ症候群とは、「アスペルガー症候群のある人と情緒的な関係が築けないがために、主にパートナーに起こる心身の不調」を示す。つまり、アスペルガー症候群のある人と結婚した後の生活の中で起こる心理的な問題であり、それが派生して身体的精神的な症状として表れ、医療の介入が必要になるほどの困難があるということが分かった。

アスペルガー症候群のある人と情緒的な関係が築きにくい要因は、「想像力」「共感性」の習得のしにくさが困難を生じさせていると考える。

愛着障害とは、主に基本的な情動欲求に、特定の養育者との死別や離別、虐待や養育放棄によって制限を加えられたことにより生じる、二次的かつ後天的な障害である。それだけではなく、愛着は人と関わる意欲やモチベーションという社会性の基盤となるものであり、子の欲求を適切に応えることを繰り返し積み重ねていくことで獲得する。だからこそ、養育者と子との間にある「共感性」のない応答も、愛着の形成に大きな影響を与える。共感性とは、「他人の考えや主張に

対して、自分もその通りだと感じること」と定義されている。何かしらの刺激によって自分の中で芽生えたものや得たものと同じものを返すことが、見てくれているという安心感・信頼感につながるのである。また、「育てにくさ」の要因として「感覚統合のつまずき」が影響している。特に、「触覚」は育てにくさを感じる要因のひとつとして挙げられる。それだけではなく、愛着の形成には“触れる”ことが欠かせない。3歳頃までという言葉が少ない世界の中で愛着が形成されることを考えると、言葉を介在としたコミュニケーションより“触れる・触れられる”というコミュニケーションを通じて愛着を形成しているゆえに、カサンドラ症候群と愛着障害と関係性は否定できないと考えられる。

(考察)

文献調査を含むカサンドラ症候群の当事者への調査より、当事者によるカサンドラ症候群の受け止め方、配偶者への理解や態度、我が子に対する認識などの現状が明らかになった。

カサンドラ症候群で注目すべきは配偶者が「アスペルガー症候群」ということではなく、「情緒的な相互関係が築けないこと」である。ゆえに、カサンドラ症候群はアスペルガー症候群のある人との限定的な関係だけではないと考える。愛着障害者とアスペルガー症候群者との間には似通っている特性が挙げられることから、愛着未形成者(特に回避型)と結婚したパートナーにも、情緒的な相互関係が築けないことによる心的・情緒的障害が当てはまるのではないだろうか。つまり、アスペルガー症候群という限定的なものではなく、誰もがカサンドラ症候群になる可能性があるということである。共生社会という観点から、障害のある人とならない人の結婚は今後増えることが予想される。その中には、愛着障害のある人もアスペルガー症候群の人もいるであろう。誰もが情緒的な相互関係が築けないことによる心的・情緒的障害になる可能性がある中で、特別な障害という認識ではなく、一般的な障害という認識で啓発していく必要があるのではないだろうか。

また、カサンドラ症候群の当事者が精神的に不安定である中では、安定した養育環境にはつながりにくい。だからこそ、カサンドラ症候群の親をもつ子どもは、愛着を形成することに困難な環境下に置かれている可能性が考えられる。それは、配偶者がアスペルガー症候群であることに限らず、類似している特性がある愛着障害者にも当てはまると考える。

そのために、専門的かつ多様な相談・支援先の設立と拡充、当事者への支援方法、カサンドラ症候群に対する認識の向上、情緒的な相互関係が築きにくい(築けない)人との付き合い方など、人的整備及び環境整備が挙げられる。それだけではなく、カサンドラ症候群に対する明確な診断基準や心的・情緒的障害に伴う服薬の処方なども含めた医学的な面での整備も視野に入れる必要があるのではないだろうか。

(文献)

<http://www.sankei.com/life/print/150825/lif1508250005-c.html> 他

(IWATA Fumi, MORISHITA Yukiko)